**講演原稿タイトル（MSゴシック14PT）センター揃え**

英文論文タイトルTimes New Roman 12 PT (Center)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ご所属先 | 苗字 名前 | First LASTNAME | Member |
| ご所属先 | MS明朝　12PT | Times NEWROMAN | Student-member |
| ご所属先 | 苗字　名前 | Fontsize 12PT | Non-member |
| ご所属先 | 苗字　名前 | First LASTNAME | Member |
| ご所属先 | 苗字　名前 | First LASTNAME | Non-member |

Abstract (Times New Roman 10pt) should be about 150 words.

**Keywords**: 5-10key words, Times New Roman 10PT

**１．見出しMSゴシック太字12PT**

これは、学術講演会・予稿集（要旨集）講演原稿のフォーマットです。講演者は必ず提出してください。2～8ページまでの偶数ページとしてください。言語は和文または英文とします。

また、学会誌への論文投稿希望者は、学術講演会後に、改めて必要提出物を揃えて、日本保全学会まで提出してください。

※要旨集（予稿集）に掲載された講演原稿の著作権は、全て日本保全学会に帰属するものとします。また、将来、保全アーカイブ、J-stageなど、ウェブ（インターネット）上への掲載を予定しておりますので、ご承知おきください。

なるべくWindows上で作成することを推奨。ヘッダー・フッターは使用しない、ページ番号を入れないこと。

文章はMS明朝10PT。原稿の本文については、2段組みとし、左右の段の間に*8*mm程度の間隔を空けること。

連絡先:名前、〒000-0000住所、所属先、

E-mail: …………@.....co.jp

\*この部分はテキストボックスです。1ページ目の左下に余白にはみ出さないように配置してください。

できる限り常用漢字を使用し、外字は出来る限り避けること。

量フォントのサイズは10 pointとし、英数字用フォントには日本語フォント（MS明朝、MSゴシック等）を用いないこと。また、数式に現れる量記号が文章中に現れる場合には、数式に用いたものと同じフォントを用い\*1、字体についてもそろえること\*2。

\*1：数式エディタ(Microsoft数式エディタやMath Type)を用いている場合、本文の英数字用フォントに｢Times New Roman｣を設定しておくと、気にしなくて済む。

\*2：特に、英文中に数式の量記号が英文と同じ字体で現れると、量記号としての判別が難しくなる場合がある。

数式には｢Computer Modern フォントファミリー(TimesやTimes New Romanもその例)｣を用いることを推奨する\*3。

\*3: Microsoft 数式エディタや Math Type では、デフォルトで Times New Roman に設定されている。

２．見出しの数字は一桁全角、二桁半角

2.1 節以下の見出しは11PT太字、英数は半角（MSゴシック）

なお、余白は下記のように設定すること。

上余白：29mm　下余白：22 mm

左余白：20 mm　右余白：20 mm

章・節・項の見出しには、ゴシック体の太文字を用い、章の見出しには12 point、節以下の見出しには11 pointの文字サイズを用いること。また、章・節・項の番号については、１桁数字には全角文字を、２桁以上の数字（2.1等のピリオドを挟む数字は2桁とみなす）には半角文字を使用し、下記の要領で付番すること。

2.2 図表、写真等の書き方

要旨集へはモノクロでの掲載となります。モノクロでもわかるように図の準備をお願いいたします。図表はなるべく、JPG、PNG、GIFで準備し、貼り付けの際に、不要部をWordの機能で隠すなどでなく、予めトリミングして貼り付けることを推奨する。ファイルサイズが大きくなる場合は、word内で図の圧縮を行う。

論文等については、図表中の文書、 説明文(figure caption)を英文とし、下記の要領に従うこと。

**Fig.1 Arial 9pt Bold (図下)**

**Table1 Arial 9pt Bold (表上)**

説明文番は、下記の要領に従うこと。ただし、学術論文と同様、英文でも良い。

**図１ MSゴシック9PT太字 図下**

**表１ MSゴシック9PT太字 図上**

Table 1 A list of the measurement conditions

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
|  |  |

Ex. of a figure. Captions should be in English.

Fig.1 Appearance of measurement sample

(NCF600 weld metal)

**参考文献**

[1] W. Cheng and H. Huang, “Ultrasonic and eddy current testing of defects in INCONEL welding metals”, 第１２回ＭＡＧＤＡコンフェランス予稿集、大分、2003、pp.187-190.

[2] 糟谷高志、 内一哲哉、 “ECTに基づくシュラウドの検査シミュレーション”、 保全学、 Vol.3,№1、2004、 pp.51-56.

[3] D.N. Collins and W. Alcheikh, “Ultrasonic non-destructive evaluation of the matrix structure and the graphite shape in cast iron”, Journal of Materials Processing Technology, Vol.55, 1995, pp.85-90.

[4] 坪井始、内藤督、“数値電磁解析法の基礎”、養賢堂、 1994、pp.52-56.